

破滅の未来から抜け出すために——「ゲンパッチー」刊行に寄せて

小出 裕章（元 京都大学原子炉実験所助教）

宇宙の広がり

この世で一番スピードが速いのは光です。1秒の間に地球を7周半、30万kmも飛ぶことができます。1、2、3と数えるうちに約100万km遠くまで飛んでいけます。1日経ったら一体どれだけ遠くまで行けるのでしょうか。250億kmです。でも、普段の生活からはそんな距離は実感できません。夜空を見上げれば、たくさん星が浮かんでいます。そこは宇宙と呼ばれる空間ですが、いったいどれだけの広いのでしょうか？ 宇宙の果てまで行くには、光でも1日では行かれません。1年でも行かれません。10年でも100年でも、いや千年でも宇宙の果てには行かれません。それどころか100億年以上かかるだろうと今では考えられています。

地球はその広大無辺な宇宙に浮かぶ星のうちごくごく小さい星の一つです。でも、命が生きることができている大変珍しい星です。人間は地球以外に命が根付ける星があるかどうか、長い間探し続けています。でも、いまだに地球以外に命が根付いている星を見つけないことができていません。そして、その人間は、地球に生きているたくさん星のうちの一つの生物種です。

人という生き物

地球が生まれたのは約46億年前と考えられています。生まれた当時の地球は火の玉で、到底命が根付ける星ではありませんでした。何億年かの時が過ぎ、命が生まれ、その命も絶滅したり、新たに誕生したりしながら時が流れて行きました。地球に原始人と呼ばれるような生き物が生まれたのは約700万年前だそうです。その人たちは、他の生き物と同じように、自然に溶け込むように生きていたのでしょうか。でも、次第に火を使うようになり、他の動物を獲って食べるようになり、1万年程前には農耕も覚えて集落を作るようになりました。火の使用は最初は木や草を燃やして使いました。でも、300年前の産業革命以降は石炭、石油、天然ガスと猛烈な勢いで燃料を使うようになりました。

もし、46億年という地球の歴史を1年に縮めて考えたとすると、人間が地球に現れたのは何月何日になるのでしょうか？ 答えを言ってしまうと、12月31日、大晦日の朝9時ごろです。人間という生物は、地球というこの命が根付けた稀有の星に、ごくごく最近になって現れた新参者です。では、人類が猛烈にエネルギーを使いだした産業革命が起きた300年前は大晦日の何時何分になるのでしょうか？ 夜の11時59分58秒です。

無毒化できない毒物を生む原子力

そして、人類は原子力も使うようになりました。1945年8月6日、広島市の上空で原子爆弾（原爆）が炸裂しました。その途端に、広島という大きな街が壊滅してしまいました。原爆は、ウランという物質を核分裂させる時に出るエネルギーを利用します。広島を壊滅させた時に核分裂したウランは800gでした。誰でも片手で持てるほどの量です。その反応を、人類は原子力発電という形で使うようになりました。でも、今日では標準的になった100万キロワットの原子力発電所を1年間運転しようとするのと1トンのウランを核分裂させる必要があります。1トンのウランを核分裂させると、1トンの核分裂生成物が生まれます。それを、普通の人は死の灰と呼びます。広島原爆がばらまいた死の灰の優に1000発分を超える死の灰を作ってしまったわけです。そして、困ったことは、人類にはそれを無毒化する力がないことです。

フクシマ事故

原子力発電所も機械です。それを運転しているのは人間で、人間は神ではありませんので、必ず誤りを犯します。原子力発電所は膨大な死の灰を炉心に内蔵しており、万一であっても、それが環境中に出てくるような事故が起されれば被害が破局的になることは分かっています。そして、恐れていた事故が2011年3月11日、福島第一原子力発電所で起こりました。破局的な事故になることを知った日本政府はその日の夜「原子力緊急事態宣言」を発令し、それまでにあった被曝に関する法令を停止しました。広島原爆1発分の死の灰だつて猛烈に恐ろしいものです。中でも人間に大きな脅威となるのはセシウム137という放射性物質ですが、その事故では、広島原爆168発分に相当するセシウムが大気中に放出されたと日本政府が発表しました。そして、極度に汚染された場所に住んでいた10万人を超える人々が避難の指示を受けました。被曝は微量でも危険を伴います。当然、逃げなければいけません。しかし、避難とは、生活を根こそぎ破壊され、故郷を追われ、流浪化することなのです。その上、汚染を受けた地域があまりにも広大であったため、日本政府は、法令を守るなら普通の人たちは立ち入ってはいけない汚染地に数百万人もの人たちを棄ててしまいました。多くの日本人はすでに忘れさせられてしまっていますが、8年以上たった今も「原子力緊急事態宣言」は解除できないまま続いています。毎日見ていて面白いほどに成長していく子どもたちは、特に被曝に敏感です。その子どもたちも汚染地で被曝しながら生活させられています。

人類自身が賢くなる必要がある

地球の歴史を1年とすると、人類は大晦日になって現れた新参者です。その人類は大晦日の最後の2秒の間に、たぐさんのエネルギーを使うようになりました。木から石炭へ、そして石油へ、天然ガスへと際限なく欲望を拡大しました。挙句の果てに原子力にも手を染めました。その裏では、地球上のたぐさんの生物種が絶滅に追い込まれてきました。

仮に、フクシマのような悲惨な事故が起らなかつたとしても、原子力発電を使ってしまいう限り、自分では無毒化できない死の灰という毒物を大量に生み出し、未来の子どもたちに残していくしかありません。

私たちはそろそろ立ち止まって、幸せとはどのようなことを言うのか考えてみるべき時です。このまま人類がもつともつと欲望を拡げて行けば、そう遠くない未来に、人類自身が依存している生命環境を破壊し、

人類自身が破滅するでしょう。それでも、地球は知らぬ顔して運行を続け、人類が絶滅した後には、また新たな生命が生まれるでしょう。人類がいなくなつた地球は、他の生き物にとつては、もつと住みやすくなつているだろうと私は思います。でも、人類は自分を霊長類に分類し、万物の霊長と呼んでいます。それなら、人類はもつと賢くなるべきです。

すべての人はそれぞれの個性を持つた千差万別の存在です。漫画を描く才能に恵まれたちづよさんはこの本「ゲンパッチー」を描いてくれました。たくさんの方の手に渡り、「イキルスベ」を考えてくれるようになることを願います。そして、本書を手にした読者の一人ひとりがそれぞれの個性を輝かせて生きれば、きつと破滅の未来から抜け出せるだろうと私は夢見ます。